

北海道根室市におけるブルーベリー近縁種ツルコケモモ 及びクロマメノキの探索・収集

伊藤 祐司・菅原 保英

農業・食品産業技術総合研究機構・北海道農業研究センター・寒地地域特産研究チーム・
果樹育種グループ

Exploration and Collection of Tsurukokemomo (*Vaccinium oxycoccus* L.) and Kuromamenoki (*Vaccinium uliginosum* L.) in Nemuro City in Hokkaido

Yuji ITO and Yasuhide SUGAWARA

*Fruit breeding group, Local Crop Breeding Research Team (Hokkaido Region), National
Agricultural Research Center for Hokkaido Region, National Agriculture and Food
Research Organization*

1 Hitsujigaoka, Sapporo 062-8555, Japan

Summary

An exploration for collecting tsurukokemomo (*Vaccinium oxycoccus* L.), Japanese wild relative species of blueberries was conducted from October 1st to 3rd, 2007. A total of 5 plants of tsurukokemomo was collected in Nemuro City, Hokkaido. But, himetsurukokemomo (*Vaccinium microcarpum* (Turcz. ex Rupr.) Schmalh.) was not found in this survey. Kuromamenoki (*Vaccinium uliginosum* L.) plants were also collected.

1. 目的

日本にはブルーベリーの近縁種であるスノキ (*Vaccinium*) 属植物が19種分布する¹⁾。北海道農業研究センターでは健康機能性があり栽培性が良好なブルーベリーの育種研究のためにこれらの近縁種の探索・収集を進めている。収集できたものは果実アントシアニン組成の解析等の研究を行っている。今回はスノキ属のうち、ツルコケモモ類(スノキ属ツルコケモモ (*Oxycoccus*) 節)に着目した。ツルコケモモ類は北日本、極東、北アメリカなどに広く分布する。北アメリカではクランベリー (*V. macrocarpon* Aiton) が栽培されており、高い健康機能性が注目されている。ヒメツルコケモモは日本では北海道東部を中心に限定分布するとされている種である。そこで、高機能性育種素材として期待されるツルコケモモ及びヒメツルコケモモを探索・収集することを計画した。

ツルコケモモは北海道から本州の湿原に分布し、北半球の北部にも広く自生する。ほふく性の

常緑小低木で、葉身が長さ5～15mmの卵状長楕円形、果実は球形で径約10mm、赤色に熟す。ヒメツルコケモモはツルコケモモによく似ていて生育場所もほぼ同じである。植物体はツルコケモモより全体的に小さいことが多く、葉は長さ2～5mmで果実は径6～7mm、大きな区別点は花柄に毛がないことであるとされている。

2. 調査・収集の地域および方法

文献等の情報により、北海道根室市内の原野に存在する湿原にツルコケモモ及びヒメツルコケモモが分布することがわかった。さらに、寒地地域特産ベリー類の研究対象であるクロマメノキ、コケモモ、ハスカップ（クロミノウグイスカグラ）も同地域に自生分布していることが判明した。調査対象地域は国公立自然公園等に指定されていない私有地である。土地所有者（希望により匿名）から土地立ち入りと上記5種の採集許可を得た。具体的には5種とも根を含む植物体全体10個体以内の採集が許された。ツルコケモモ類は、調査予定地付近では9月中旬から10月に果実が成熟するとの情報を得たため、2007年10月1日から3日に現地調査を行うことを計画した。許可を得た調査対象地域近くまではレンタカーを用いて移動し、1日半程度をかけて徒歩によって許可地域内の調査対象種を詳細に探索して、許可を得た本数以内の植物体採取を行うこととした。

3. 結果および考察

探索調査・収集は、10月2,3日に、許可を受けた根室市内の原野で行った。調査地付近は主にササや単子葉草本を主体とする原野でその中に小さな湿原が存在していた。湿原はミズゴケの高層湿原で、その上には単子葉草本とササにツルコケモモ、クロマメノキ、クロミノウグイスカグラ（ハスカップ）、コケモモ、ゴゼンタチバナ、ヤチャナギ等が混在して分布していた。原野の周りには高木はほとんど見られなかった。ツルコケモモ5個体、クロマメノキ7個体、コケモモ5個体、ハスカップ9個体を採取した(Photo 1-5)。ヒメツルコケモモについては詳細に形態観察・識別を行ったが、今回の調査では発見できなかった。なお、今回採集できたクロマメノキは全国でこの地域にのみ低地に隔離分布している低地性のもので、研究素材としての有用性が高いと考えられる。

採取した個体は、北海道農業研究センターにおいて鉢植えとしている。一部不活着の個体があったが、多くの個体が活着して発芽展葉を始めている。果実が得られ次第、果実アントシアニン組成の解析等を行い育種素材としての評価研究等を行うとともに、交雑試験等に用いる貴重なブルーベリー近縁野生遺伝資源として個体保存する。

4. 謝辞

本調査に当たり、土地所有者（希望により匿名）から土地立ち入り許可および採集許可を受け、調査可能場所の事前打ち合わせ等で多大なご協力を頂いた。根室地方における自生地の分布についての情報は中標津町の粟野氏、根室市歴史と自然の資料館の近藤氏からいただいた。紙面をお借りして心より感謝の意を表します。

5. 引用文献

- 1) スノキ属 日本の野生植物 Ⅲ草本 p13-14. 平凡社

Table1. 収集リスト

Collection list of Nemuro City

植物名 Japanese name	学名 Scientific name	個体数 a total number of collections	収集地 Collection site
ツルコケモモ Tsurukokemomo	<i>Vaccinium oxycoccus</i>	5	根室市 Nemuro City
クロマメノキ Kuromamenoki	<i>V. uliginosum</i>	7	根室市 Nemuro City
コケモモ Kokemomo	<i>V. vitis-idaea</i>	5	根室市 Nemuro City
クロミノウグイスカグラ Kurominouguisukagura	<i>Lonicera caerulea</i> var. <i>emphyllocalyx</i>	9	根室市 Nemuro City



Photo 1. ツルコケモモの自生状況
A habitat of tsurukokemomo



Photo 2. ツルコケモモの枝葉及び果実
Twigs, leaves and fruit of tsurukokemomo



Photo 3. クロマメノキの自生状況
A habitat of kuromamenoki



Photo 4. クロマメノキの枝葉
Twigs and leaves of kuromamenoki



Photo 5. ハスカップ (クロミノウグイスカグラ) の
枝葉及び果実
Twigs, leaves and fruit of haskap
(kurominouguisukagura)